

情報学学位プログラム（博士前期課程）

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OATW111	データサイエンス実践	1	2.0	1・2	春AB	木3,4		森継 修一, 伊藤 寛祥, 芳鐘 冬樹	研究機関等が提供するオープンデータの拡充とともに、それらの分析手法に習熟したデータサイエンティストの社会的需要が高まっている。講義前半では、データサイエンスと数学および統計学の関連について概観したのち、統計学的手法に基づくデータ分析を実践し、最新の「計算代数統計」と呼ばれる手法の導入までを目指す。後半では、インフォメトリクスデータに基づく分析の理論と手法について学習する。特に、それらのデータの特性である低頻度事象の存在や、それに起因する統計的尺度の標準量依存性に配慮した分析に関する理解を深める。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業；メディアサイエンス専門科目 01MBB06、01MBB19と同一。 オンライン(オンデマンド型)
OATW112	機械学習とパターン認識	1	2.0	1・2	春AB	木1,2		若林 啓, 長谷川 秀彦	本講義では機械学習手法の原理と実践的利用についての体系的な知識を学ぶ。特に、データサイエンスの基礎技法である画像認識や文書分類、クラスタリングを行うための機械学習手法として、ニューラルネットワークやベイズモデルに基づく教師あり学習と教師なし学習を扱う。線形代数や確率論に基づいた機械学習の基本的な原理について講義するとともに、画像データやテキストデータのパターン認識に関する演習を適宜交えることで理解を深める。また、データマイニングにおける応用や、大規模データに対する並列処理など、機械学習に関連した技法についても学ぶ。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業；メディアサイエンス専門科目；教職科目 01MBB20と同一。 その他の実施形態 第1回はオンライン(同時双方向型)、第2-10回はオンライン(オンデマンド型)
OATW113	メディアデザイン	1	2.0	1・2	秋AB	火5,6		金 尚泰, 落合 陽一	芸術・デザイン・メディアアートの知見から、情報デザインの仕組みを理解するとともに、ハードウェア制作やソフトウェア制作を通じた実世界志向インタラクションおよびインフォグラフィックスの手法を学ぶ。実世界志向のインタラクションは近年、スマートフォンやウェアラブル端末などの情報機器の普及によって産業界から注目を集めており、またインフォグラフィックスを応用した画面表示やコミュニケーションのための表現がコンテンツ制作者に求められている。本講義ではグラフィックデザイン手法を基盤とし、ビジュアル表現に関して議論ができるスキルを養い、その応用例として展覧会を実施し、それにまつわるビジュアル作りやキャプション作りなど実社会で使用するスキルを身につける。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業；メディアサイエンス専門科目 01MBB07、01MBB12と同一。 オンライン(同時双方向型)
OATW114	ビジュアライゼーション	1	2.0	1・2	秋AB	火1,2		時井 真紀, 藤澤 誠	医療分野や気象学、生物学などで得られる計測データ、購買情報等の人々の行動データ、物理現象の解析に用いられるコンピュータシミュレーションから得られる数値データなど、膨大で複雑なデータを人間が理解し、解釈するためにコンピュータグラフィックスを用いた情報可視化技術が必須となってきている。本講義では情報可視化の基礎を学ぶとともに、科学的なデータを可視化するサイエンティフィックビジュアライゼーションと社会的なデータを可視化するインフォメーションビジュアライゼーション、そしてこれらのデータを扱うための3次元ユーザーインタフェース(AR)についても学ぶ。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業；メディアサイエンス専門科目；教職科目 01MBB09、01MBC04と同一。 オンライン(オンデマンド型)
OATW115	生体生命情報	1	2.0	1・2	春AB	月3,4		真榮城 哲也, 寺澤 洋子	生命が持つ情報の側面について学ぶ。具体的には、遺伝情報、生体内の情報処理、脳活動、生体信号等を題材に、様々な現象の計測やモデル化、データの保存、分析、表現等について学ぶ。特に、バイオインフォマティクスで使われる生命情報を扱う手法や、生命をモデル化するためのシステムバイオロジーの考え方、生体信号処理や知覚システムモデリングの手法、生体情報を用いた芸術表現など関連分野の知識について理解することを目的とする。さらに、近年の生物学の研究において、必須となっている情報学の考え方や手法を、関連する生命現象とともに学ぶ。	偶数年度は英語で授業、奇数年度は日本語で授業；メディアサイエンス専門科目；教職科目 01MBB08と同一。 オンライン(同時双方向型)
OATW116	感性認知情報	1	2.0	1・2	春AB	火5,6		平賀 譲, 李 昇姫, 森田 ひろみ	メディアサイエンスを理解し応用するために不可欠な、人間の感性・認知の働きについて学ぶ。以下の項目に関する講義・ディスカッションを行う：(1) 人間の認知過程、とりわけ理性的な思考や客観性のある解析過程について、計算論的モデル化によるアプローチの基礎を学び、具体的な事例・領域への適用について論じる。(2) インタフェースの成立基盤となる物体認知や運動学習などに関する心理学的知見について学び、その方法論を実践的に学習する。(3) 創造性における感性情報の働きや感性情報評価の概念について解説する。感性、認知、行動と生体情報、パーソナリティなどの融合科学として、デザイン発想、製品開発に応用された事例を学ぶ。	偶数年度は英語で授業、奇数年度は日本語で授業；メディアサイエンス専門科目 01MBB10と同一。 その他の実施形態 第1-7回オンライン(オンデマンド型)、第8-10回オンライン(同時双方向型)

OATW117	構造化データ	1	2.0	1・2	秋AB	月1,2	鈴木 伸崇, 中井 央	本講義では、構造化データとその処理手法などについて学ぶ。まず、構造化データを処理する上で必要となる正規表現やオートマトンなどの基礎概念について解説する。その上で、構造化データなどに対する構文解析手法について学習する。次に、XMLデータに対する代表的な検索言語であるXPathやXQueryについて解説する。さらに、半構造化データベースなど、マークアップ言語で記述されたデータの蓄積・管理手法について学ぶ。最後に、近年普及が著しいグラフデータにおける検索やスキーマについて講義する。	偶数年度は日本語で授業。奇数年度は英語で授業。メディアサイエンス専門科目:教職科目 01MBA09, 01MBA01と同一。オンライン(オンデマンド型)
OATW11A	情報アクセス	1	2.0	1・2	秋AB	土3,4	佐藤 哲司, 関 洋平, 森嶋 厚行	大量の情報へのアクセスは、ビッグデータ時代の鍵となる技術であり、その重要性は益々増大するばかりである。本講義では、情報アクセスの中心的な技術である情報検索、情報管理・統合技術、自然言語処理について、最先端の技術動向を交えながら説明する。これらの領域における最先端の話題として、WWWを舞台としたコレクティブインテリジェンスや共創知、クラウドソーシング、ソーシャルメディアにおける情報統合についても解説し、情報アクセス技術のこれまでとこれからの研究や社会応用の展望について理解を深める。	東京キャンパス開講;メディアサイエンス専門科目:教職科目:研究群共通専門基礎科目 01MBA12と同一。その他の実施形態 第1回はオンライン(同時双方向型)、第2-10回はオンライン(オンデマンド型)
OATW131	知識情報分析	1	2.0	1・2	春AB	金1,2	中山 伸一, 横山 幹子	知識についての論考とそれを獲得するための方法について学ぶ。前半は、知識とは何かについて検討する。まず、「正当化された真なる信念」という知識の定義やそれに対する批判(ゲティア問題等)を紹介した上で、知識の共有について意味論との関わりを踏まえ、相対主義とその批判という視点から講義する。後半は、知識構造の分析により得られる様々な知識表現の方法について、その特性を含めて考究する。続いて、知識と情報、データの関係についてアフォーダンスの視点で検討する。最後に、様々な事象から情報やデータを取得する方法と知識を形成するための方法について学ぶ。	偶数年度は英語で授業。奇数年度は日本語で授業。情報インタラクション専門科目:教職科目 01MBA01, 01MBA02と同一。その他の実施形態 第1-5回はオンライン(オンデマンド型)、第6-10回はオンライン(同時双方向型)
OATW132	情報プラクティス	1	2.0	1・2	春AB	月5,6	上保 秀夫, 于 海濤, 松林 麻実子	情報プラクティスとは人間と情報との相互作用全般を含む新しい概念であり、図書館情報学における情報行動研究からコンピュータ科学におけるヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)まで幅広い領域で議論される。他者やユーザの社会的文脈など既存研究より広いコンテキストを考慮した相互作用の理解を重視する点に特徴がある。本講義では、古典的な情報探索行動・情報検索研究から情報プラクティスという視座に至るまでの歴史的経緯、ログ分析や実験室実験を基にした情報探索行動のユーザモデル、そして、ユーザの探索行動を学習・予測する手法とその評価について学ぶ。	偶数年度は日本語で授業。奇数年度は英語で授業。情報インタラクション専門科目:教職科目 01MBA06, 01MBA07と同一。オンライン(同時双方向型)
OATW133	情報推薦	1	2.0	1・2	秋AB	金1,2	辻 慶太, 松村 敦	情報推薦システムの諸側面について学習する。まずこれまで情報推薦に用いられてきた協調フィルタリング、内容ベースフィルタリング、アソシエーションルール、様々な情報を機械学習で統合的に利用した推薦、といった代表的な手法について学ぶ。情報推薦は、利用者が興味を持つアイテムの推薦を目的とする。興味を持つ要因としてはいくつかあるが、推薦では利用者の問題関心と合致していることに加え、目新しさや思いがけなき、即ちセレンディピティも重要となる。適切・有効な推薦が行えたかを判定する評価基準についても学ぶ。	偶数年度は英語で授業。奇数年度は日本語で授業。情報インタラクション専門科目:教職科目 01MBA03と同一。オンライン(オンデマンド型)
OATW134	ヒューマンコンピュータインタラクション	1	2.0	1・2	秋AB	火3,4	井上 智雄, 三河 正彦	本講義では、ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)について解説する。より円滑なインタラクションを実現するために必要となるHCIの基本的な考え方をはじめ、システムとして構築するための設計、実装、評価手法の概要について学ぶ。さらにユーザインタフェース(UI)、ロボティクス、コンピュータビジョン、認識技術等のシステムをインテリジェント化するための要素技術に加え、人間のコミュニケーションや情報共有を支援、拡張、活用するソーシャルコンピューティングに関する研究開発の最新の動向についても解説する。	偶数年度は英語で授業。奇数年度は日本語で授業。情報インタラクション専門科目:教職科目 01MBA11, 01MBA16と同一。オンライン(オンデマンド型)
OATW135	コミュニケーション行動	1	2.0	1・2	春AB	火5,6	歳森 敦, 叶 少瑜	本授業では量的調査による対人コミュニケーションに関する分析について論じる。主として各種のメディア使用が対人コミュニケーションや選択行動へ与える影響について学ぶ。従来のマスメディアから現在のソーシャルメディアまでの各種のメディアの歴史的変遷を踏まえ、それぞれの使用がいかにかユーザのアイデンティティ形成や言語使用、コミュニケーションメディア親、対人関係性にソーシャル・サポート・ネットワークの構築に影響するのかなどについて学際的な視点から理解を深め、国内外の既存研究を読み解くための基本的なスキルを習得する。	偶数年度は英語で授業。奇数年度は日本語で授業。情報インタラクション専門科目:教職科目 01MBA11と同一。オンライン(同時双方向型)

OATW136	コミュニティ分析	1	2.0	1・2	秋AB	金3,4	ユニオン講義室	後藤 嘉宏, 照山 絢子	情報や知識は、コミュニティが繋がり、断絶し、ときに衝突し、影響を与え合うインタラクションの中で生み出され、活性化され、伝達される。本講義ではコミュニティ研究の基礎理論を学ぶとともに、エスニシティ、地域、言語等、コミュニティのカテゴリごとにフィールドワークなどの質的調査に基づく既存研究をレビューする。さらに公民館、図書館、学校、病院、地域コミュニティなどの場でコミュニティ間にインタラクションの必要な場面が生じた際に、メンバー特性を踏まえ、コミュニティ内の情報や知識がどう発生・受容・変容するかを学ぶ。	偶数年度は日本語で授業。奇数年度は英語で授業:情報インタラクション専門科目:教職科目 01MBC10と同一。 対面
OATW137	デジタルヒューマニティーズ	1	2.0	1・2	秋AB	木1,2		和氣 愛仁	デジタルヒューマニティーズは人文学資料にデジタル技術を適用することで、伝統的手法では得られなかった知見を得ることを目的としている。講義では、テキストを資源化するためのテキストエンコーディング、絵図から作成当時の文化や社会を考察する図像分析、歴史文書に自然言語処理手法を適用する文書解析、古地図や古文書の記述を地理情報システムにマッピングする手法、画像ファイルを簡単に流通させるための規格であるInternational Image Interoperability Framework (IIIF:トリプルアイエフ)等について解説する。	偶数年度は英語で授業。奇数年度は日本語で授業:情報インタラクション専門科目 01MBC02, 01MBC03と同一。 オンライン(同時双方向型)
OATW138	知的財産と情報の安全	1	2.0	1・2	春AB	月1,2		阪口 哲男, 高良 幸哉, 村井 麻衣子	情報に関連する法制度や裁判例を概観し、情報化・ネットワーク化が進む現代社会における法的問題とそれに関わる技術について検討を行う。具体的には、著作権法などの知的財産法や、プライバシー・個人情報保護その他の情報に関する法を扱う。また、社会規範を守るという観点から見ると、情報社会において情報に関する法的権利へ配慮することは、情報倫理としても求められるようになっていく。さらに情報の安全や知的財産保護に関する技術の基礎についても扱う。この講義では、情報に関する法制度と関連する技術の基礎的な事項を確認するとともに、法制度のあり方や実際の事例について自ら検討を行い、幅広い視野での理解を深める。	偶数年度は日本語で授業。奇数年度は英語で授業:情報インタラクション専門科目:教職科目 01MBA03, 01MBA04と同一。 オンライン(オンデマンド型)
OATW13A	知識情報分析	1	2.0	1・2	春AB	金7,8		中山 伸一, 横山 幹子	知識についての論考とそれを獲得するための方法について学ぶ。前半は、知識とは何かについて検討する。まず、「正当化された真なる信念」という知識の定義やそれに対する批判(ゲティア問題等)を紹介した上で、知識の共有について意味論との関わりを踏まえ、相対主義とその批判という視点から講義する。後半は、知識構造の分析により得られる様々な知識表現の方法について、その特性を含めて考究する。続いて、知識と情報、データの関係性についてアフォーダンスの視点で検討する。最後に、様々な事象から情報やデータを取得する方法と知識を形成するための方法について学ぶ。	東京キャンパス開講:情報インタラクション専門科目:教職科目 その他の実施形態 第1回-第5回はオンライン(オンデマンド型)、第6回-第10回はオンライン(同時双方向型)
OATW13B	ヒューマンコンピュータインタラクション	1	2.0	1・2	秋B	集中		井上 智雄, 三河 正彦	本講義では、ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)について解説する。より円滑なインタラクションを実現するために必要となるHCIの基本的な考え方をはじめ、システムとして構築するための設計、実装、評価手法の概要について学ぶ。さらにユーザインタフェース(UI)、ロボティクス、コンピュータビジョン、認識技術等のシステムをインテリジェント化するための要素技術に加え、人間のコミュニケーションや情報共有を支援、拡張、活用するソーシャルコンピューティングに関する研究開発の最新の動向についても解説する。	東京キャンパス開講:情報インタラクション専門科目:教職科目 01MBC11と同一。 12/4-12/5, 12/11-12/12, 12/18-12/19 オンライン(オンデマンド型) 12/4 (土) 3, 4, 5限 12/5 (日) 3, 4, 5限 12/11 (土) 3, 4, 5, 6限 12/12 (日) 3, 4, 5限 12/18 (土) 3, 4, 5限 12/19 (日) 3, 4, 5, 6限
OATW13C	デジタルヒューマニティーズ	1	2.0	1・2	秋AB	火7,8		和氣 愛仁	デジタルヒューマニティーズは人文学資料にデジタル技術を適用することで、伝統的手法では得られなかった知見を得ることを目的としている。講義では、テキストを資源化するためのテキストエンコーディング、絵図から作成当時の文化や社会を考察する図像分析、歴史文書に自然言語処理手法を適用する文書解析、古地図や古文書の記述を地理情報システムにマッピングする手法、画像ファイルを簡単に流通させるための規格であるInternational Image Interoperability Framework (IIIF:トリプルアイエフ)等について解説する。	東京キャンパス開講:情報インタラクション専門科目 01MBC03と同一。 オンライン(同時双方向型)

OATW13D	知的財産と情報の安全	1	2.0	1・2	春AB	土5,6	阪口 哲男, 高良 幸哉, 村井 麻衣子	情報に関連する法制度や裁判例を概観し、情報化・ネットワーク化が進む現代社会における法的問題とそれに関わる技術について検討を行う。具体的には、著作権法などの知的財産法や、プライバシー・個人情報保護その他の情報に関する法を扱う。また、社会規範を守るという観点から見ると、情報社会において情報に関する法的権利へ配慮することは、情報倫理としても求められるようになってきている。さらに情報の安全や知的財産保護に関する技術の基礎についても扱う。この講義では、情報に関する法制度と関連する技術の基礎的な事項を確認するとともに、法制度のあり方や実際の事例について自ら検討を行い、幅広い視野での理解を深める。	東京キャンパス開講: 情報インタラクション 専門科目:教職科目 オンライン(オンデマンド型)
OATW151	図書館メディア文化史	1	2.0	1・2	春AB	金5,6	溝上 智恵子, 呑海 沙織, 綿坂 豊昭	本講義では、「歴史から学ぶ」という視座にたち、知識情報基盤としての図書館と記録メディアの歴史について学ぶ。まず、粘土板やパピルスといった古代のメディアから、羊皮紙とコデックス、活版印刷等、主として西洋の記録メディアの変遷を概観する。次に、中世の修道院図書館から図書館法、近代図書館の成立に至るまでの西洋の図書館の変遷を理解するとともに、日本の図書館の変遷についても学ぶ。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業:図書館情報学専門科目 01MBA05, 01MBC17と同一。 その他の実施形態 第1-5回はオンライン(オンデマンド型)、第6回のみ対面(7A105)
OATW152	パブリックサービス	1	2.0	1・2	春AB	火1,2	吉田 右子, 三波 千穂美	本講義ではパブリックな場における情報サービスに関して、特定のコミュニティおよび社会制度の2つの位相からそのサービスをとらえ、参加者/利用者のエンパワーメントに焦点を当てて議論する。前半は生涯学習をテーマとして、情報・メディア・文化へのアクセスを保障する公共図書館サービスを、コミュニティ、社会的公正性、リベラル・マルチカルチャリズムの観点から検討する。後半は企画・決定、検討・手順書作成、広報・準備、実施・評価のプロセスを通じて、テクニカルコミュニケーション実践のための理論と方法を学ぶ。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業:図書館情報学専門科目 01MBA10, 01MBC09と同一。 その他の実施形態 第1-4回はオンライン(オンデマンド型)、第5回はオンライン(同時双方向型)、第6-10回はオンライン(オンデマンド型)
OATW153	ライブラリーマネジメント	1	2.0	1・2	春AB	金3,4	池内 淳, 大庭 一郎, 小泉 公乃	本講義では、主に公共図書館を対象として、図書館を効果的に管理・運営していくための経営手法について学ぶ。経営学におけるさまざまな理論、原則、概念、技法などについて解説するとともに、それらを非営利組織体である図書館に応用することの展望と限界について検討する。さらに図書館経営のみに止まらず、図書館の社会的役割、政策・法制度、人的資源管理、サービス計画と評価、予算獲得と資金調達、広報、図書館連携(官民連携や学社連携も含む)などについて学ぶ。	偶数年度は英語で授業、奇数年度は日本語で授業:図書館情報学専門科目 01MBC11と同一。 オンライン(オンデマンド型)
OATW154	学術情報基盤	1	2.0	1・2	秋AB	月3,4	7C103 逸村 裕, 松林 麻実子	本講義では、研究者が行う学術コミュニケーションとそれを支える学術情報流通制度について概観するとともに、その現状と諸課題に関する理解を深める。前半では、研究活動と学術コミュニケーションの関係、学術メディアの電子化による学術コミュニケーションの新しい動き(学術雑誌の変化、オープンアクセス・オープンサイエンス概念の出現)について学ぶ。後半では、学術コミュニケーションを支える基盤としての学術情報流通制度(学術雑誌のビジネスモデル、大学図書館の研究支援サービス、学術情報ネットワーク)について学ぶ。	偶数年度は英語で授業、奇数年度は日本語で授業:図書館情報学専門科目 01MBC14, 01MBC15と同一。 対面
OATW155	アーカイブズ	1	2.0	1・2	秋AB	月5,6	白井 哲哉, 江前 敏晴, パールイシェフ エドワルド	2011年の東日本大震災以降、歴史的に重要な文書記録の救出・保存が日本各地で取り組まれている。また日本では2011年の公文書管理法施行以後、行政文書の管理と保存が国の重要課題となった。本講義では、日本と欧米諸国におけるアーカイブズ施設(文書館・公文書館)、アーカイブズ資料(歴史資料・行政文書)及び専門職アーキビストとその養成の具体的事例に基づき、アーカイブズ学の全体像を論じるとともに、図書館の類縁施設であるアーカイブズ施設に関する基礎知識を獲得する。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業:図書館情報学専門科目 01MBC05, 01MBC18と同一。 オンライン(オンデマンド型)
OATW156	博物館情報メディア	1	2.0	1・2	秋AB	火5,6	辻 泰明, 白石 信子, 宮本 聖二	博物館はメディアである、博物館が提供するものは情報であり、テレビに似ている(梅棹1987)と唱えられて以後、インターネットの普及に伴い、メディアとしての博物館は急速に発展しつつある。リアルな博物館とヴァーチャルな博物館の双方において、情報メディアに関する知識と理解が強く求められている。本講義は、インターネット展開における映像リテラシーの重要性を窺いつつ、博物館と情報メディアに関し、その現状と展望について、さまざまな観点から考察する。	偶数年度は日本語で授業、奇数年度は英語で授業:図書館情報学専門科目 01MBC21, 01MBC06と同一。 オンライン(オンデマンド型)

OATW157	情報組織化	1	2.0	1・2	春AB	木5,6	高久 雅生,加藤 誠,永森 光晴	本講義では、様々な情報資源を効果的かつ効率的に利用するための組織化について学ぶ。主にWWWやデジタルライブラリー等のネットワークを介して提供・共有される情報資源を対象とし、情報資源の分析とそのメタデータ記述、分類や識別の手法について学ぶ。また、Linked Open Data等の実践的なメタデータ記述も対象とし、記述に対するRDF Schema、OWL、SKOS等を利用したスキーマ定義とオントロジーについても理解を深める。あわせて、電子情報資源を対象としたレコード識別の方法として、適切な識別子を用いた同定、データクリーニング、自動同定の手法について解説する。	偶数年度は英語で授業。奇数年度は日本語で授業:図書館情報学専門科目:教職科目 01MBB05、01MBC07と同一。 オンライン(同時双方向型)
OATW158	メディア教育	1	2.0	1・2	秋AB	火1,2	鈴木 佳苗,辻 慶太	本講義では、生涯学習社会における学校図書館や公共図書館、ネットワーク環境などを含むアナログからデジタルまでの学習環境の在り方、これらの学習環境におけるメディアの利活用や教育等を統合的に扱い、その基盤となる理論やモデル、実践について学ぶ。具体的には、メディアを活用して効果的に情報を収集・判断・創造・発信するために必要とされる「メディアリテラシー」の概念、メディア教育や学習環境の整備の重要性、現状や課題等についての理解を深め、今後の展開等について考察する。	偶数年度は英語で授業。奇数年度は日本語で授業:図書館情報学専門科目 01MBC12、01MBC13と同一。 オンライン(オンデマンド型)
OATW15A	図書館メディア文化史	1	2.0	1・2	春AB	火7,8	溝上 智恵子,香海 沙織,綿坂 豊昭	本講義では、「歴史から学ぶ」という視座にたち、知識情報基盤としての図書館と記録メディアの歴史について学ぶ。まず、粘土板やパピルスといった古代のメディアから、羊皮紙とコデックス、活版印刷等、主として西洋の記録メディアの変遷を概観する。次に、中世の修道院図書館から図書館法、近代図書館の成立に至るまでの西洋の図書館の変遷を理解するとともに、日本の図書館の変遷についても学ぶ。	東京キャンパス開講: 図書館情報学専門科目 その他の実施形態 第1-5回、第7-10回はオンライン(オンデマンド型)、第6回のみ対面
OATW15B	パブリックサービス	1	2.0	1・2	春AB	木7,8	吉田 右子,三波 千穂美	本講義ではパブリックな場における情報サービスに関して、特定のコミュニティおよび社会制度の2つの位相からそのサービスをとらえ、参加者/利用者のエンパワーメントに焦点を当てて議論する。前半は生涯学習をテーマとして、情報・メディア・文化へのアクセスを保障する公共図書館サービスを、コミュニティ、社会的公正性、リベラル・マルチカルチュラル主義の観点から検討する。後半は企画・決定、検討・手順書作成、広報・準備、実施・評価のプロセスを通じて、テクニカルコミュニケーション実践のための理論と方法を学ぶ。	東京キャンパス開講: 図書館情報学専門科目 01MB52Bと同一。 その他の実施形態 第1-9回はオンライン(オンデマンド型)、第10回はオンライン(同時双方向型)
OATW15C	ライブラリーマネジメント	1	2.0	1・2	春AB	土3,4	池内 淳,大庭 一郎,小泉 公乃	本講義では、主に公共図書館を対象として、図書館を効果的に管理・運営していくための経営手法について学ぶ。経営学におけるさまざまな理論、原則、概念、技法などについて解説するとともに、それらを非営利組織体である図書館に応用することの展望と限界について検討する。さらに図書館経営のみならず、図書館の社会的役割、政策・法制度、人的資源管理、サービス計画と評価、予算獲得と資金調達、広報、図書館連携(官民連携や学社連携も含む)などについて学ぶ。	東京キャンパス開講: 図書館情報学専門科目 01MBE44と同一。 オンライン(オンデマンド型)
OATW15D	学術情報基盤	1	2.0	1・2	秋AB	土5,6	逸村 裕,松林 麻実子	本講義では、研究者が行う学術コミュニケーションとそれを支える学術情報流通制度について概観するとともに、その現状と諸課題に関する理解を深める。前半では、研究活動と学術コミュニケーションの関係、学術メディアの電子化による学術コミュニケーションの新しい動き(学術雑誌の変化、オープンアクセス・オープンサイエンス概念の出現)について学ぶ。後半では、学術コミュニケーションを支える基盤としての学術情報流通制度(学術雑誌のビジネスモデル、大学図書館の研究支援サービス、学術情報ネットワーク)について学ぶ。	東京キャンパス開講: 図書館情報学専門科目 01MBE02と同一。 オンライン(同時双方向型)
OATW15E	アーカイブズ	1	2.0	1・2	秋AB	土7,8	白井 哲哉,江前 敏晴,バーリイ シェフ エドワルド	2011年の東日本大震災以降、歴史的に重要な文書記録の救出・保存が日本各地で取り組まれている。また日本では2011年の公文書管理法施行以後、行政文書の管理と保存が国の重要課題となった。本講義では、日本と欧米諸国におけるアーカイブズ施設(文書館・公文書館)、アーカイブズ資料(歴史資料・行政文書)及び専門職アーキビストとその養成の具体的事例に基づき、アーカイブズ学の全体像を論じるとともに、図書館の類縁施設であるアーカイブズ施設に関する基礎知識を獲得する。	東京キャンパス開講: 図書館情報学専門科目 01MBE32と同一。 オンライン(オンデマンド型)

OATW15F	博物館情報メディア	1	2.0	1・2	秋AB	月7,8	辻 泰明, 白石 信子, 宮本 聖二	博物館はメディアである。博物館が提供するの は情報であり、テレビに似ている(梅棹1987)と 唱えられて以後、インターネットの普及に伴 い、メディアとしての博物館は急速に発展しつ つある。リアルな博物館とヴァーチャルな博物 館の双方において、情報メディアに関する知識 と理解が強く求められている。本講義は、イン ターネット展開における映像リテラシーの重要 性を窺みつつ、博物館と情報メディアに関し、 その現状と展望について、さまざまな観点から 考察する。	東京キャンパス開講: 図書館情報学専門科目 O1MB50Bと同一。 オンライン(オンデマ ンド型)
OATW15G	情報組織化	1	2.0	1・2	春AB	月7,8	高久 雅生, 加藤 誠, 永森 光晴	本講義では、様々な情報資源を効果的かつ効 率的に利用するための組織化について学ぶ。主 にWWWやデジタルライブラリー等のネットワー クを介して提供・共有される情報資源を対象 とし、情報資源の分析とそのメタデータ記述 、分類や識別の手法について学ぶ。また、 Linked Open Data等の実践的なメタデータ記述 も対象とし、記述に対するRDF Schema、OWL 、SKOS等を利用したスキーマ定義とオントロ ロジーについても理解を深める。あわせて、 電子情報資源を対象としたレコード識別の 方法として、適切な識別子を用いた同定、 データクレンジング、自動同定の手法につ いて解説する。	東京キャンパス開講: 図書館情報学専門科目: 教職科目 オンライン(同時双 方向型)
OATW15H	メディア教育	1	2.0	1・2	秋AB	金7,8	鈴木 佳苗, 辻 慶 太	本講義では、生涯学習社会における学校図 書館や公共図書館、ネットワーク環境など を含むアナログからデジタルまでの学習環 境の在り方、これらの学習環境におけるメ ディアの利活用や教育等を統合的に扱い、 その基盤となる理論やモデル、実践につ いて学ぶ。具体的には、メディアを活用し て効果的に情報を収集・判断・創造・発信 するために必要とされる「メディアリテラ シー」の概念、メディア教育や学習環境の 整備の重要性、現状や課題等についての理 解を深め、今後の展開等について考察す る。	東京キャンパス開講: 図書館情報学専門科目 O1MBE21と同一。 オンライン(オンデマ ンド型)
OATW211	研究法基礎	2	2.0	1	春C	月・木 5,6	森継 修一, 落合 陽一, 辻 泰明, 中 井 央, 綿抜 豊昭	まず、それぞれの担当教員が専門とする研 究領域を紹介し、研究テーマの設定方法や 調査・実験の方法、研究成果の公表方法な どの特徴について解説する。その後、修士 論文執筆を最終目標として、文書作成、 研究倫理、プレゼンテーションの5つの テーマについて学ぶ。(取り上げるテーマ の順番は変更になる可能性がある。)さら に、研究の遂行と論文作成のために有用な 各種のツールの使い方を演習を通して学 ぶ。これらを通して、研究者となるため の基礎的知識と技能を身に着ける。	毎年、日本語で開講。方 法論的基盤科目 O1MBA53と同一。 その他の実施形態 第1-2回はオンライン (オンデマンド型)、 第3-4回はオンライン (同時双方向型)、 第5-10回はオンライン (オンデマンド型)
OATW213	文献調査法	2	2.0	1	春C	火・金 1,2	森田 ひろみ, 李 昇姫, 大庭 一郎, 関 洋平, 村井 麻 衣子	近年、研究テーマの学際化が進み、自分 の専門以外の分野においても、素早く 広く適切な文献を探し理解する能力が 重要になりつつある。そこで、情報学 に関わるいくつかの専門分野における 、文献探索・講読法を修得し、その 分野の信頼できる情報源、スタン ダードな論文構成、投稿を目指し たい学術誌などの情報を知る。代 表的な文献を読んで発表を行うこと もある。	毎年、日本語で開講。方 法論的基盤科目 O1MBA51と同一。 オンライン(オンデマ ンド型)
OATW214	Literature Survey	2	2.0	1	秋C	月・木 5,6	真栄城 哲也, 于 海濤, サーカー サヤン, 平賀 譲, 芳鐘 冬樹	近年、研究テーマの学際化が進み、自分 の専門以外の分野においても、素早く 広く適切な文献を探し理解する能力が 重要になりつつある。そこで、情報学 に関わるいくつかの専門分野にお ける、文献探索・講読法を修得し、 その分野の信頼できる情報源、ス タンドな論文構成、投稿を目指し たい学術誌などの情報を知る。代 表的な文献を読んで発表を行うこと もある。	毎年、英語で開講。方法 論的基盤科目 O1MBD52と同一。 英語で授業。 その他の実施形態 第1-6回オンライン(オン デマンド型)、第7- 10回オンライン(同時 双方向型)
OATW215	調査とデータ分析	2	2.0	1	秋C	月・木 3,4	後藤 嘉宏, 鈴木 佳苗, 時井 真紀, 長谷川 秀彦, 叶 少瑜	本科目では量的調査、質的調査、コン ピュータを用いたデータ分析を扱う。 グループワークも取り入れ、社会調 査における調査票の作成から実施 までを演習することで、量的調査 や質的調査の基礎を学ぶ。くわ えて、伝統的なデータ分析法と ともに近年開発された新しい手法 を学び、データに対する基本的な 見方と分析手法を理解する。	毎年、日本語で開講。方 法論的基盤科目 O1MBB51、O1MBC51と 同一。 その他の実施形態 第1回はオンライン(オン デマンド型)、第2回 はオンライン(同時双 方向型)、第3回は オンライン(オンデマ ンド型)、第4回は オンライン(同時 双方向型)、第5-9回 はオンライン(オン デマンド型)、第10 回はオンライン(同時 双方向型)

OATW216	Survey and Data Analysis	2	2.0	1	春C	月・木 3,4	于 海濤, サークー サヤン, 照山 絢子, 若林 啓	本科目では量的調査、質的調査、コンピュータを用いたデータ分析を扱う。グループワークも取り入れ、社会調査における調査票案の作成から実施までを演習することで、量的調査や質的調査の基礎を学ぶ。くわえて、伝統的なデータ分析法とともに近年開発された新しい手法を学び、データに対する基本的な見方と分析手法を理解する。	毎年、英語で開講。方法論的基盤科目 O1MBD51と同一。英語で授業。オンライン(同時双方向型)
OATW21A	研究法基礎	2	2.0	1	春C	火・金 7,8	森継 修一, 落合 陽一, 辻 泰明, 中井 央, 綿抜 豊昭	まず、それぞれの担当教員が専門とする研究領域を紹介し、研究テーマの設定方法や調査・実験の方法、研究成果の公表方法などの特徴について解説する。その後、修士論文執筆を最終目標として、文書作成、研究倫理、プレゼンテーション、協同作業、プレゼンテーションの5つのテーマについて学ぶ。(取り上げるテーマの順番は変更になる可能性がある。) さらに、研究の遂行と論文作成のために有用な各種のツールの使い方を演習を通して学ぶ。これらを通して、研究者となるための基礎的知識と技能を身に着ける。	東京キャンパス開講: 方法論的基盤科目 O1MBE52と同一。その他の実施形態 第1-2回はオンライン(オンデマンド型)、第3-4回はオンライン(同時双方向型)、第5-10回はオンライン(オンデマンド型)
OATW21B	文献調査法	2	2.0	1	春C	月・木 7,8	森田 ひろみ, 李昇 姫, 大庭 一郎, 関 洋平, 村井 麻衣子	近年、研究テーマの学際化が進み、自分の専門以外の分野においても、素早く広く適切な文献を探求し理解する能力が重要になりつつある。そこで、情報学に関わるいくつかの専門分野における、文献探索・講読法を修得し、その分野の信頼できる情報源、スタンダードな論文構成、投稿を目指したい学術誌などの情報を知る。代表的な文献を読んで発表を行うこともある。	東京キャンパス開講: 方法論的基盤科目 O1MBE53と同一。オンライン(オンデマンド型)
OATW21C	調査とデータ分析	2	2.0	1・2	秋C	火・金 7,8	後藤 嘉宏, 鈴木 佳苗, 時井 真紀, 長谷川 秀彦, 叶 少瑜	本科目では量的調査、質的調査、コンピュータを用いたデータ分析を扱う。グループワークも取り入れ、社会調査における調査票案の作成から実施までを演習することで、量的調査や質的調査の基礎を学ぶ。くわえて、伝統的なデータ分析法とともに近年開発された新しい手法を学び、データに対する基本的な見方と分析手法を理解する。	東京キャンパス開講: 方法論的基盤科目 O1MBE13と同一。その他の実施形態 第1回はオンライン(オンデマンド型)、第2回はオンライン(同時双方向型)、第3回はオンライン(オンデマンド型)、第4回はオンライン(同時双方向型)、第5-9回はオンライン(オンデマンド型)、第10回はオンライン(同時双方向型)
OATW231	研究計画	2	2.0	1	秋C	火・金 1,2	佐藤 哲司, 寺澤 洋子, 吉田 右子	本演習では第三者に自分の研究を体系的かつ明確に説明することを目的として、プレゼンテーションとドキュメンテーション技術の基礎を修得する。まず学生個人個人の研究テーマを題材に、研究計画書作成の基礎を学ぶ。続いて多様な専門領域におけるアカデミック・ライティングの特徴を理解し、論文執筆のスキルを修得する。	毎年、日本語で開講。実践指導科目。その他の実施形態 第1回から第6回まではオンライン(同時双方向型)、第7回はオンライン(同時双方向型・オンデマンド型併用)、第8回はオンライン(オンデマンド型)、第9回はオンライン(同時双方向型・オンデマンド型併用)、第10回はオンライン(オンデマンド型)
OATW23A	業務計画	2	2.0	1・2	春AB	土7,8	高久 雅生, 白井 哲哉, 高良 幸哉	自らの専門業務における業務経験を踏まえて、当該業務の体系化と改善、事業開発に資するような業務改善プログラムを作成・考案する。作成したプログラムに関する発表と評価を経て、教員のアドバイスに基づきプログラムの改善を行う。	毎年、日本語で開講。東京キャンパス開講: 実践指導科目。オンライン(同時双方向型)
OATW251	情報学特別演習a	2	2.0	2	春ABC	応談	佐藤 哲司, 情報学学位プログラム(博士前期課程)担当教員	修士論文執筆のために、メディアサイエンス、情報インタラクション、図書館情報学の各領域に関して以下の研究トピックについて論文指導を受ける。 (1)メディアの特性を活かしたデータ活用に関する理論と応用 (2)コミュニケーションに焦点を当てた情報利用に関する理論と応用 (3)社会基盤としての知識資源のマネジメントに関する理論と応用 情報学特別演習aは春学期に開講する。	研究指導科目
OATW252	情報学特別演習b	2	2.0	2	秋ABC	応談	佐藤 哲司, 情報学学位プログラム(博士前期課程)担当教員	修士論文執筆のために、メディアサイエンス、情報インタラクション、図書館情報学の各領域に関して以下の研究トピックについて論文指導を受ける。 (1)メディアの特性を活かしたデータ活用に関する理論と応用 (2)コミュニケーションに焦点を当てた情報利用に関する理論と応用 (3)社会基盤としての知識資源のマネジメントに関する理論と応用 情報学特別演習bは秋学期に開講する。	研究指導科目

OATW271	グローバル研究演習1a	2	1.0	1	春ABC	応談	逸村 裕, 情報学学位プログラム(博士前期)指導教員	国際学会で発表を行うためのスキルを総合的に修得することを目的とする。発表の準備として、発表資料の作成、プレゼンテーションの実習を行う。国際学会において発表を行うとともに、関連研究の発表を聴講し、研究の視野を広げる。学会終了後の発表の振り返りを通じて自己評価を行い、興味を持った発表に関する報告書を作成する。グローバル研究演習Iは1年次生を対象として開講する。	履修対象者は担当教員が指示する:(1) 標準在籍期間の2年間で2回の「筑波大学海外留学支援事業(はばたけ!筑大生)」優先申請を認める;(2) 修了要件に含まない;研究指導科目 O1MB156と同一。
OATW272	グローバル研究演習1b	2	1.0	1	秋ABC	応談	逸村 裕, 情報学学位プログラム(博士前期)指導教員	国際学会で発表を行うためのスキルを総合的に修得することを目的とする。発表の準備として、発表資料の作成、プレゼンテーションの実習を行う。国際学会において発表を行うとともに、関連研究の発表を聴講し、研究の視野を広げる。学会終了後の発表の振り返りを通じて自己評価を行い、興味を持った発表に関する報告書を作成する。グローバル研究演習Iは1年次生を対象として開講する。	履修対象者は担当教員が指示する:(1) 標準在籍期間の2年間で2回の「筑波大学海外留学支援事業(はばたけ!筑大生)」優先申請を認める;(2) 修了要件に含まない;研究指導科目 O1MB157と同一。
OATW273	グローバル研究演習11a	2	1.0	2	春ABC	応談	逸村 裕, 情報学学位プログラム(博士前期)指導教員	国際学会で発表を行うためのスキルを総合的に修得することを目的とする。発表の準備として、発表資料の作成、プレゼンテーションの実習を行う。国際学会において発表を行うとともに、関連研究の発表を聴講し、研究の視野を広げる。学会終了後の発表の振り返りを通じて自己評価を行い、興味を持った発表に関する報告書を作成する。グローバル研究演習IIは2年次生を対象として開講する。	履修対象者は担当教員が指示する:(1) 標準在籍期間の2年間で2回の「筑波大学海外留学支援事業(はばたけ!筑大生)」優先申請を認める;(2) 修了要件に含まない;研究指導科目 O1MB158と同一。
OATW274	グローバル研究演習11b	2	1.0	2	秋ABC	応談	逸村 裕, 情報学学位プログラム(博士前期)指導教員	国際学会で発表を行うためのスキルを総合的に修得することを目的とする。発表の準備として、発表資料の作成、プレゼンテーションの実習を行う。国際学会において発表を行うとともに、関連研究の発表を聴講し、研究の視野を広げる。学会終了後の発表の振り返りを通じて自己評価を行い、興味を持った発表に関する報告書を作成する。グローバル研究演習IIは2年次生を対象として開講する。	履修対象者は担当教員が指示する:(1) 標準在籍期間の2年間で2回の「筑波大学海外留学支援事業(はばたけ!筑大生)」優先申請を認める;(2) 修了要件に含まない;研究指導科目 O1MB159と同一。